社会福祉法人近江ちいろば会

魅力発信経営報告書

社会福祉法人 近江ちいろば会

2012年9月1日発行　第1号

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

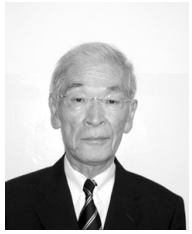
社会福祉法人近江ちいろば会　魅力発信経営報告書

目　次

理事長より皆様へ ---------- 1
施設長より皆様へ ---------- 1
基本理念 ---------- 2
基本理念を実現させる法人経営の仕組み（知的資産） ------- 4
社会福祉法人近江ちいろば会　法人経営の力（構造資産） ----- 5
社会福祉法人近江ちいろば会　法人経営の力（人的資産） ----- 6
社会福祉法人近江ちいろば会　法人経営の力（関係資産） ----- 7
ケアハウス　ピスガこうせい ---------- 8
グループホーム　ぼだいじ ---------- 10
ぼだいじ　ホームヘルパーステーション ---------- 11
デイサービスセンター　虹 ---------- 12
デイサービスセンター　いこい ---------- 13
中央デイサービスセンター　しんあい ---------- 14
小規模多機能型居宅介護事業　ぼだいじ　みんなの家 ------ 15
ぼだいじ　居宅介護支援センター ---------- 16
ぼだいじ　高齢者支援センター ---------- 17
ぼだいじ　訪問看護センター ---------- 18
グループホーム・デイサービス・ケアプランセンター
　みなくち　みんなの家 ---------- 19
社会福祉法人近江ちいろば会の沿革（過去から現在まで） ----- 20
社会福祉法人近江ちいろば会の業績推移 ---------- 21
私たちの弱み、機会、脅威 ---------- 22
社会福祉法人近江ちいろば会のビジョン ---------- 23
魅力（知的資産）の強化と新たな魅力創出に向けて --------- 24
事業者の概要 ---------- 25
魅力発信経営報告書について ---------- 26

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

理事長より皆様へ



「光陰矢の如し」、この言葉どおり近江ちいろば会が湖南市菩提寺の地で事業を開始して早や17年が経ちました。

この間、滋賀県、湖南市、甲賀市の行政の方々や地域の方々に随分温かく支えられ、折に触れお励ましの言葉をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

近江ちいろば会もこれから2025年、団塊の世代が75歳以上に到達する時期を踏まえて、どのようなビジョンを持ち施設整備、事業整備を行っていくのかが課題です。

スウェーデンやデンマークといった諸外国においては、過去には介護が必要な高齢者のために比較的大規模な施設整備が行われていましたが、特にデンマークでは高齢者三原則（①生活の継続、②自己決定の尊重、③自己能力の活用）に沿って施設建設を進める方向で、高齢者住宅の建設と２4時間在宅ケア体制を確立したようです。

日本においても、高齢者ケアニーズの増大、単独世帯の増大、認知症を有する人の増加などを背景として、介護保険サービス、医療保険サービスのみならず様々な配食・見守りなどの生活援助サービスの促進、高齢者の住まいの確保などが求められています。

地域の人々が住み慣れた所で安心して生活できるように、上記の求めに応答できるように近江ちいろば会はこれからも進化してまいります。

皆さま方のご支援をこれからもよろしくお願い申し上げます。

理事長　奈良　譽夫

館長より皆様へ

近江ちいろば会を17年間　お支えいただき誠に感謝でございます。

2012年4月現在　サービス事業は１５に上り、職員数も150名にもなりました。これは近江ちいろば会が、理念の「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」の実践で地域の人々に必要なサービスをこつこつと積み上げてきた結果であると思います。

2025年に向けた「地域包括ケア」の取り組みが求められています。つまり、可能な限り住み慣れた地域において継続して生活ができるよう、介護、医療、生活支援サービス、住まいの４つを一体化して提供していくという考え方です。近江ちいろば会においては、介護サービス（居宅、デイサービス、ヘルパー、グループホーム、小規模多機能など）は勿論、訪問看護、配食弁当、移送サービス、ケアハウスの充実で小さいながら４つの機能を果たしつつあります。今後、さらに充実発展していくには、地域の診療所・病院や民生委員、区長、ボランティアなどの地域の方々とのネットワークが不可欠でしょう。

地域で根を張り、地域づくりに貢献する近江ちいろば会であることが私たちの使命と認識し、これからも社会福祉法人としての価値を上げる取り組みを行っていきたいと願っています。

これからも、皆様のご協力のほどお願い申し上げます。

館長　森口　茂

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

基本理念

私たちはキリスト教の精神に基づいて、高齢者の全生活において
「隣人愛の奉仕」を実施することを基本理念とします。

人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

ルカによる福音書　６章３１節

１．一人一人の人格の尊厳を第一とします。
２．人はそれぞれ違うことを確認します。
３．一切の差別をしません。
４．自分のことばかりでなく、相手のことを考えます。
５．各事業が連携して、互いに協力して、目的の達成に努めます。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

社会福祉法人近江ちいろば会の事業概要

社会福祉法人近江ちいろば会は、1995年に現在の地である滋賀県湖南市菩提寺に、縁があって開設することができました。当初は、高齢者介護事業として、ケアハウス５０床と通所介護事業の２つから始まりましたが、現在では、ホームヘルプ事業、グループホーム、民家型の認知症対応通所介護サービス、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援事業、高齢者支援センター、配食事業等を運営しており、平成２４年４月からは、新たに訪問看護事業と、甲賀市水口町で、グループホーム、通所介護、居宅介護事業所を開設することとなりました。

事業所名	事業内容	定員等
ケアハウス　ピスガこうせい	ケアハウス	５０室
ぼだいじデイサービスセンター　虹	通常型通所介護	定員３５名
ぼだいじデイサービスセンター　いこい	認知症対応通所介護	定員３２名
中央デイサービスセンター　しんあい	認知症対応通所介護	定員１０名
ぼだいじ　ホームヘルパーステーション	訪問介護事業	
グループホーム　ぼだいじ	認知症対応生活介護	定員１８名
小規模多機能型居宅介護事業所　ぼだいじ　みんなの家	小規模多機能型居宅介護	登録定員２５名
ぼだいじ　居宅介護支援センター	居宅介護支援事業所	
ぼだいじ　訪問看護ステーション	訪問看護	
ぼだいじ　高齢者支援センター	湖南市委託事業	
近江ちいろば会　配食サービス	弁当配達サービス	
ちいろば移送サービス	特定旅客自動車運送業(通院送迎サービス)	
グループホーム　みなくち　みんなの家	認知症対応生活介護（平成24年）	定員１８名
デイサービスセンター　みなくち　みんなの家	通常型通所介護（平成24年）	定員１０名
ケアプランセンター　みなくち　みんなの家	居宅介護支援事業所（平成24年）	

ケアハウス　ピスガこうせい

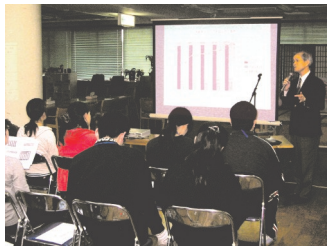
グループホーム　ぼだいじ

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

基本理念を実現させる法人経営の仕組み(知的資産)

事業計画発表の様子

事業所別の年間事業計画を、日本経営品質賞をベースに、各所長が考え実行しています。
所長の気づきやアイデアを計画に落としこみ、介護の質と経営目標の両立に取り組んでいます。



認知症の方が、それぞれ自分のペースで暮らすことを大切にするグループホーム、何かあっても、いつでも頼りになる小規模多機能施設、ご家族から頼りにされる認知症デイなど、それぞれの事業所が、創意工夫しています。

高質の在宅ケア

社会との関わりを大切にする取り組み

事業別計画経営

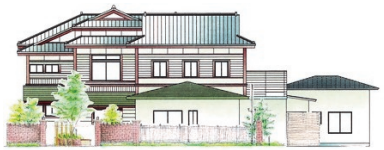
積極的な人材育成

適切な投資による成長力

近江ちいろば会　本部の十ヶ条

1. 法令遵守を徹底します。
2. 機密事項、個人情報を適正に取り扱い秘密保持に努めます。
3. 各事業所とのより良い連携を目指します。
4. 気持ちよく応対します。
5. 利益確保のため正確な指標を提示します。
6. スキルアップ・レベルアップを図ります。
7. 柔軟な頭を持ち新しい変化に対応します。
8. 数字に責任を持ち正確な業務を心がけます。
9. 近江ちいろば会を広くアピールします。
10. 地域との共存を目指します。

地域の小学生の見守り隊活動、地域の人も楽しみに参加される夏祭り、グループホームでの家族も含めた合同の食事会、ケアハウスで開かれる出張のパン屋、八百屋さん、喫茶など、社会のなかにあってこその暮らしが、そこにあります。



平成24年4月開設：**みなくちみんなの家**
当地域で、長らく産婦人科医院として親しまれてきた建物を改装し、グループホームと通所介護等を開設しました。

研修会や学会等で発表する若手職員

個人、組織別目標管理を取り入れ、若い職員もアイデアを出し合って伸び伸び仕事をしています。認知症実践者研修修了者が、正職員の半数を占め、介護福祉士も、全職員の30％を超えています。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

（福）近江ちいろば会　法人経営の力（構造資産）

基本理念の浸透を図っています

基本理念
【人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい】
を毎朝、職員が唱和しています。

理念が明確でわかりやすいので、職員ひとり一人のこころに入りやすい。普段の行動指針となっています。

四季があふれる自然環境と自立性・生活を重視した建築空間

四季があふれる山や川、豊かな緑に囲まれながらも、住宅地にあり、地域住民との交流も盛んな立地環境です。

財務体質の強化

強い財務体質を作るため、部門別収支管理を行い、継続的で戦略的な投資を行いつつ、安定した財務を実現し、成長性と安定性を確保するものとなっています。

在宅介護と認知症ケアに重点をおいた質の高いケアの提供体制

湖南市エリア

グループホーム「ぼだいじ」	ケアハウス「ピスガこうせい」	デイサービス「虹」一般型
小規模多機能「ぼだいじみんなの家」	民家型デイ「しんあい」認知症型	デイサービス「いこい」認知症型
ぼだいじ居宅介護支援事業所	高齢者支援センター配食サービス	高齢者支援センター生きがいデイ
ぼだいじホームヘルパーステーション	ちいろば移送サービス	ぼだいじ訪問看護ステーション

甲賀市エリア

ケアプランセンターみなくちみんなの家	グループホームみなくちみんなの家	デイサービスみなくちみんなの家

計画経営の実践

理念を実現するための計画経営に取り組んでいます。本部は、中長期の収支および投資計画、単年度事業計画を作成しています。

人材育成の仕組み

個人目標と組織目標が明確になっています。

施設長と、職員全員（パート含む）の面談を年に２回実施しています。

2005年から大卒職員を毎年採用しています。介護業務以外にも幅広い視野や能力をもった人材を採用・育成しています。

職場風土改善、労務管理の工夫

事業所間の人事ローテンションが活発にあります。キャリアアップや、スキルアップにより、自己実現の機会が拡がります。

ワークライフバランスの認定、パートから正職員への登用制度などがあり、女性の働きやすい職場づくりに努めています。

拍手かっさい制度
職員間で、「いいね！」と思った行動をポイントにしています。プラス評価の風土をさらに根付かせていく仕組みです。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

（福）近江ちいろば会　法人経営の力（人的資産）

資格者の育成

入職してからでも、様々な資格に挑戦できます。

全職員数１５０名（平成24年度現在）
正職員５５名
内訳
介護福祉士：４５名
ケアマネジャー資格者：１３名
看護師：9名
社会福祉士：８名
管理栄養士：1名
栄養士：３名

ケアマネジャー達

利用者お一人おひとりにあったケアプランの作成をしています。

栄養士達

おいしくて、健康的で、楽しい食事を日々、提供しています(管理栄養士・栄養士)

現場に入る事務職員

現場の様々なお困りごと（パソコン操作、保険請求、対外業務等）を解決する頼りになる職員たち。現場のミーティングに事務職員も参加しています。

仕事に誇りとビジョンを持つ人材たち

介護福祉士達

社会福祉士達

本部職員

認知症実践者研修修了者

法人本部の十カ条

1．　法令遵守を徹底します。
2．　機密事項、個人情報を適正に取り扱い秘密保持に努めます。
3．　各事業所とのより良い連携を目指します。
4．　気持ち良く応対します。
5．　利益確保のため正確な指標を提示します。
6．　スキルアップ・レベルアップを図ります。
7．　柔軟な頭を持ち新しい変化に対応します。
8．　数字に責任を持ち正確な業務を心がけます。
9．　近江ちいろば会を広くアピールします。
１０．地域との共存を目指します。

近江ちいろば会で、健康と医療サービスを担う
看護師達

日々のケアを支えるパート職員

パートの方々も、意欲を持って研修に参加され、専門性を高めています。多様な働き方を尊重し、正職員への登用制度など、柔軟な雇用制度があります。

認知症に対する専門性

認知症実践者研修修了者：20名
認知症の専門医や、地域の介護事業所からのご紹介も増えています。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

（福）近江ちいろば会　法人経営の力　（関係資産）

ご家族とのきずなを大切に

グループホーム

年に１回、ご家族様をご招待し、入居者の皆様との食事会や相談会を開催しています。

グループホーム入居者とご家族による旅行の様子。毎年１回、入居者様とご家族様、職員とで一泊の旅行を行っています。

ケアハウスの運動会

医療サービスの選択の自由

当法人と契約している内科、整形外科、歯科による健康診断、予防接種、往診、通院は元より、それまでのかかりつけ医や病院への通院も自由にできます。

地域や家族とのつながりを大切に

「生活は、社会との繋がりがあってこそ」との考えの元、ご利用者、お一人おひとりが社会を関わっていけることを尊重しています。

施設のなかで、お買い物！

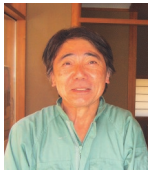
地域の団体やお店が、パン屋さん、八百屋さんを定期的に、お店を開いてくれています。

グループホームの入居者の方々による朝夕の通学見守り隊活動の様子

ケアを支えるボランティアの皆様

音楽演奏　　お話ボランティア　　教室など

庭の管理　　ハーモニカボランティア　　営繕



大切な地域とのつながり

当法人で行う様々なイベントに地域の方々も参加してくれています。

屋台も出る納涼祭のにぎわい

ご入居の方の踊りや、職員のダンス、全職員の仮装による参加など、毎年、驚きと感動をお届けしています。

喫茶「ひまわり」

月に１回、ケアハウスの食堂を開放して、喫茶「ひまわり」を開いています。手作りのケーキなどで、会話がはずみます。ケアハウスの入居者、デイサービスの利用者が利用されるとともに、ケアハウスの入居者が、逆にボランティアとして、運営を手伝ってくれています。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ケアハウス　ピスガこうせい（構造資産）

ケアハウス
ピスガ
こうせい

ケアハウスは、60才以上で、基本的な生活は、自立されている方で、自炊ができない程度の身体機能の低下や、独立して生活するには不安が認められ、家族による援助を受けることが困難な方が入居し、各種相談援助、給食などのサービスが受けられる高齢者向け賃貸住宅の一つです。老人福祉法に基づいて設置された施設です。

お食事は、明るい食堂で自由に食べていただけます。栄養や食べる楽しみに配慮した食事を提供しています。

約14畳の個室で、全室南向き個室です。使い慣れた家具等をお持込みいただけます。

ロビーでは、常設のピスガギャラリーとして、絵画などの展示が行われており、定期的に、パン屋さん、八百屋さんなどの出店で、にぎわいます。

ケアハウスの基本方針

- 自分らしい暮らしを一日でも長く続けられる場所
- ひとり一人の暮らしを豊かに援助する場所
- それぞれの役割がある暮らし

これまでのケアハウス
相談中心の考え方

→

現在のケアハウス
援助者として考え方

生きがいのある暮らし

街に出かけたり習い事に通う自由があります。
来客も自由、家族も、ゲストルームで宿泊ができ、食事もできます。
入浴も13時～21時まで、自由に入れます。

健康で過ごしていただくための体制

健康相談：月1回
健康診断：年1回(施設負担)
医療機関（内科・整形）への通院無料
内科、眼科往診
週に5日の筋トレ体操など

部門スタッフが自ら考える事業計画

年度計画、年度目標を現場の職員が知恵を出し合って考えるので、職場の課題や目標が共有されます。
行事の企画書を職員が作ることで、やりがいやよろこびが生まれています。

業務の質向上・人材育成の仕組み

月に1回の全員職員会議を3時間実施し、行事、処遇向上、研修発表などを行い、全職員のレベルアップとやりがい作りに取り組んでいます。

長く暮らせるための付加サービスの提供

服薬管理
受診付添
居室配膳
貴重品管理
等

ケアハウスは、本来、自己管理が出来る人の住まいですが、付加サービスを提供することで、自分で出来なくなっても、長くここで暮らし続けられる。ケースによっては、看取りまで行うことができました。

四季が豊かな住環境で、近隣の散歩、お買い物、習い事など、外出も自由にできます。

ケアハウス十ヶ条

1. 多様な人が暮らせる雰囲気づくりをします。
2. ケアハウスの地域の一員として共生を図ります。
3. 迅速な対応をします。
4. 挨拶はきちんとし、丁寧な言葉遣いをします。
5. いつでも相談にのります。
6. 継続して健康管理をおこない、また緊急時も24時間職員が対応します。
7. 季節感のある施設づくりをします。
8. 職員も一緒に楽しんで行事をおこないます。
9. 食事は適温で提供し、体調に合わせて形態も変えて提供します。
10. 守秘義務を厳守します。

ケアハウスのご利用について

定員	**50**	
利用料	入居一時金	3,400,000円
	1年間で17万円の償却です。20年均等償却で未経過分は返還されます	
	月額利用料の目安	78,350～133,950円
	内訳： 管理費　：２３，５００円 生活費　：４２，９７０円 事務費：１０，０００円～６７，３００円 光熱水費：各部屋ごとに実費 ☆冬季加算額：１，８８０円（１１月～３月） ☆その他：電話料・電気料・水道料は、各自ご使用分をお支払いいただきます 。 ☆介護保険サービスは、外部サービスのご利用となり、利用料は、1割負担となります。 ☆詳細は、当施設までお問い合わせ下さい。	

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ケアハウス　ピスガこうせい（人的資産・関係資産）

人的資産

入居者のことを考えていたら、どんどん気づきが生まれてきた。介護保険でなくても、出来ることが多い！

「ピスガこうせい」は、５０名定員（単独施設）のケアハウスが規定で定められている以上の下記人員体制で業務を行っています。

施設長	相談員	援助者	事務員	栄養士	調理員	合計
１名	１名	３名	１名	１名	５名	１２名

＊　別途　宿直員、パート職員配置(平成24年3月現在)

長く暮らしていただいている入居者の皆様が、一番の宝です！

朝の体操の様子

入居者の平均年齢；８４．３才、最高齢者は１０２才の方々が、俳句や川柳、手芸などを楽しんで過ごされます。(平成24年3月)

関係資産

地域の方々が、施設内を訪れていただける機会が多く、社会や地域の中の暮らしを大切にしています。

恒例の**納涼祭**は、ご家族、地域住民による屋台、職員による演奏やダンスなど、自由に来て楽しんでいただけます。

職員たちも仮装大賞を競って楽しませてくれます。

喫茶「ひまわり」，居酒屋「はなの彩」が、毎月１回、開かれ、普段とは違う人との交流や楽しみがあります。

ケアハウスの運動会：子供の頃の気持ちになって

地元の**小学生との交流**の様子

中学生の職場体験の様子

入居者による暮らしの改善活動

受け身の立場でなく、入居者自身による懇談会を開き、自治会のような活動をしています。

- ○　ミニ懇談会：年６回、階ごとの集会
- ○　入居者懇談会：年３回、入居者全員の集会
- ○　三者懇談会：年１回、ご家族も来ていただいて行う懇談会

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

グループホーム　ぼだいじ

グループホーム
ぼだいじ

構造資産

入居者の視点に立った建築設計

個人の生活空間を大切にした個室、筋力低下や注意力低下を防ぐ段差、自然の光が豊富に届く間取り、間接光を主としたやさしい照明、共有スペースやサブパブリックスペース、気配を感じられる窓など、認知症の方も、落ち着いて暮らせる環境となっています。
監修：外山 義　氏(元京都大学教授)
設計：永野建築設計事務所

地域で暮らしてきた継続性を大切にしたケアの提供

入所前から通いなれた理美容院、友人宅などへ、当ホームから通っていただいたり、料理や掃除なども、本人ができることを、できるだけやっていただいています。役割があり、人から喜ばれたり、ほめられたりしながら、お過ごしいただくようにしています。

その人の生活リズムを大切に

早起きの人、起きるのが遅い人など、それぞれの生活リズムがあります。当ホームでは、朝の食事は、個々の時間で食べていただき、入浴も朝８時～２０時までの間でいつでも入っていただけます。

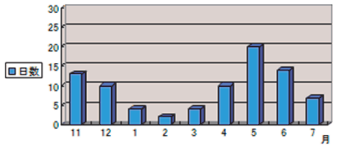
グループホームの基本方針

ひとり一人のこれまでの暮らしを続けていただくこと

尊厳は、社会との関わりの中にこそあり

施設に閉じこもって生きていくことが目的ではありません。社会との普段の関わりの中にこそ、自己の存在意義を感じることができます。当グループホームでは、地域で行われる朝のラジオ体操に参加したり、夕方の小学校の下校の見守りに参加し、社会のリズムと合った暮らしをしています。こうした活動は、健康維持にも効果的と感じています。

スクールガード活動



認知症ケアの専門性と人材育成の仕組み

入居者ひとり一人の担当者が決まっており、信頼関係を築きやすい体制にしています。家族的なケアにより介護の面だけでなく、個性、生活習慣、考え方、人生経験も把握しつつ、専門性を持った介護・援助の提供を行っています。

毎月１回のカンファレンスを開き、ケア業務の改善、共有化、統一性を図っています。毎月、全入居者のモニタリングを行い、毎年、業務改善活動に取り組み、課題の発見、共有、業務効率化に取り組んでいます。

人的資産

専門性の高い人材

職員１７名のうち、認知症実践者研修修了者は、正職８名中４名、認知症実践リーダー研修修了者２名、介護福祉士は、全職員１７名中７名となっています。自発的な資格取得や研修への参加意欲が高い職員が多くいます。

仕事に喜びを感じられる

離職者が少ないのは、仕事に喜びを感じられるからと考えています。結婚等で退職された方が、入居者のところへ訪れたり、当ホームの行事にボランティアとして参加されたりしています。

関係資産

ご家族や地域との関係を大切に

年に１回の家族会を開催し、食事会や懇談をしています。退去された方のご家族が、ボランティアとして、その後の行事に参加されたりしています。ターミナルケアでは、家族も一緒に泊まっていただく日を設けるなど、家族との絆を大切にしています。

グループホーム　十ヶ条

1. 地域の方との交流を持つ
   （子供見守り隊、地域のラジオ体操等の参加）
2. 支えあい共に暮らす
3. メリハリのある生活（当たり前な生活をおくる）
4. ふれあいの場を多く持つ（お茶の間サロン等）
5. ゆっくり座って会話する
6. 誠実に言葉をかける
7. 適度に運動する（百歳体操）
8. 好きな時間に入浴できる
9. トイレで排泄が出来る援助
10. 最期まで関わる

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ぼだいじ　ホームヘルパーステーション

ぼだいじ
ホームヘルパーステーション

ホームヘルパーステーションの
基本方針

常に利用者本人の味方となって考える

構造資産

介護力に自信あり

様々な理由による介護困難事例やヘルパー拒否事例でも、無理なく対応してきました。これまでに、依頼されて断ったことはありません。特に、身体介護、認知症介護には、どの部門にも負けないという自負を持って取り組んでいます。

365日(AM７時～PM８時)のサービスを提供

朝、昼、夕にサービスが集中するなかで、派遣スケジュールを効率的に運営するノウハウがあります。携帯電話のメール機能を使い、登録ヘルパーにも、予定変更や派遣要請を柔軟にできる体制を作っています。

私的サービスも積極的に！

介護保険だけでは対応できない介護サービスも、積極的に提供しています。ご家族へのサービスや生活援助など、制度の視点だけでなく、ご利用者の視点に立って、柔軟に対応させていただいています。

診療所や病院への通院手段に、当ぼだいじのヘルパー職員が運転して介助するサービスを平成23年度から開始しました。

「ぼだいじ」移送サービス

人的資産

離職者も少なく、チームワークがよい人材たち

チャレンジ精神が旺盛な所長に聞く、介護力を高めるポイントは？

どんな時でも笑顔を！

- ◇ 利用者の声をよく聞く
- ◇ 利用者の状況をよく観察する
- ◇ 職員の声をよく聞く
- ◇ 職員の得意なことを活かす

関係資産

利用者やご家族様との信頼関係

利用者全員に、年賀状や暑中見舞い等を書いて、信頼関係を高めるようにしています。

利用者全員に、お誕生日カードを写真入りで送り、ともに喜びを感じています。

人材育成の取り組み

１か月に１回、利用者対応や認知症対応をパート職員も含めた全員で、カンファレンスや勉強会を行い、職員の知識や能力の向上と、ケアの向上を継続的に行っています。
法人の業務改善活動に毎年参加し、業務の効率化の課題に取り組んでいます。

認知症対応の仕方の十カ条

1. 認知症の原因と症状を理解します。
2. 認知症の人の特徴や行動を理解します。
3. 認知症の方の健康管理に気を配ります。
4. 利用者様の心に寄り添った介護をします。
5. 認知症に悩む人を抱えて悩む家族の思いをお聞きします
6. アセスメントをこまめにします。
7. ヘルパー同士の連携をとって統一した声かけをします。
8. 他事業所と情報の共有をします。
9. 認知症の方と楽しいコミュニケーションをとります。
10. 常に認知症の方の立場に立って行動します。

移送の十カ条(一部抜粋)

1. 安全運転を第一とします。
2. 車輌の整備・点検を定期的に行います。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ぼだいじ　デイサービスセンター　虹

デイサービスセンター
虹

構造資産

創意工夫されたレクリエーション

ひとり一人の個性やその日の気分で、いろいろな過ごし方が選んでいただけるよう、また、自然に生活機能を高めていただけるよう、日々、レクリエーションには相違工夫をしています。平成２３年度には、レクの種類が、３０種を超えました。
その日の気分に合わせて、「ハッスル村」「ひらめき村」「ほっこり村」のレクが選べます。

ハッスル村で、玉入れに、熱中！

私は、ひらめき村で、作品づくり！

私たちは、ほっこり村で、カラオケをしたり、お話しましょう！

重度介護にも対応できる設備と体制

要介護５の方も、送迎、レクリエーション、食事、入浴、健康管理ができるよう、機械浴（いす浴、ストレッチャー浴）等があり、体制（事業所加算Ⅰ、口腔ケア加算、運動機能加算等）を整えています。

「虹」の基本方針

「子供から大人まで、いろんな人が集まる憩いの場やなぁ。」と言われたい

構造資産

強いチームワーク

問題が起きた時は、全員で話し合い、解決に向けて取り組む体制ができています。

- ◇ **朝のミーティング、夕のミーティングを時間内に完了する。**
- ◇ **ケアプラン、一日の反省、役割の確認を行う。**
- ◇ **法人内のケアマネジャーと意見交換会を行う。**
- ◇ **事務部門も参加して、法人全体で業務改善に取り組む。**

人的資産

高い介護力を持つ職員たち

介護福祉士は、全職員１４名中６名（正職１名、非常勤５名）、社会福祉士は、２名（正職１名、非常勤１名）が働いています。

若い職員が多く、新しいアイデアがあふれたサービスの提供

デイサービスの中の喫茶店も、職員のアイデアから生まれました。利用者の方も、ちょっと気分転換に本格的コーヒーを楽しまれています。

関係資産

ご家族も参加できる多くの仕組み

ご利用者とご家族の交流機会も大切にしています。ご家族をお招きして、お茶会（春）、納涼祭（夏）、敬老会（秋）などを開催し、一緒に楽しんでいただいています。また、年に１回、家族懇談会を開催し、ご意見を何っています。

ご家族もたくさん来られる納涼会の様子

地域とのつながりを大切に

菩提寺北小学校との交流会（なぞなぞ、ぼうずめくりゲームなど）を定期的にもっています。
ダンス、歌、絵画、手芸、お話ボランティアなど、たくさんのボランティアさんに、支えられています。

デイサービス「虹」の十カ条

1. 私達は安心で安全な送迎を致します。
2. 私達は笑顔でお迎え、笑顔でお送り致します。
3. 私達は目標をもって取り組んでいただけるレクリエーションを提供致します。
4. 私達は安全で快適な入浴のお手伝いを致します。
5. 私達は四季を感じていただける行事を提供いたします。
6. 私達はご利用者様の声に耳を傾けます。
7. 私達は感謝の気持ちを忘れません。
8. 私達はいつまでも誠実な姿勢を忘れません。
9. 私達は人が集まる開かれたデイサービスを目指します。
10. 私達は地域の方々にも信頼されるデイサービスであり続けます。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ぼだいじ　デイサービスセンター　いこい

認知症対応型通所介護
いこい

構造資産

頼りにされるデイサービス

◇　定員は３２名ですが、そのなかで個別ケアに取り組んでいます。認知症介護から入るのではなく、その人の個性に対するケアを行っています。
◇　重度認知症の方への対応力が評価され、他事業所からの紹介が増えています。
◇　デイの宿泊に取り組んでいます。あんしんなじみ事業（湖南市）の補助事業となっています。
◇　延長利用、夕食サービスにも柔軟に対応し、在宅介護の支え手として活動しています。

サテライト型の民家改修デイハウス「いこいハウス」によるケア提供

近隣の住宅地にお出かけスペースを併設し、より少人数（定員７名）の認知症対応デイサービスを提供しています。

なじみの家と野菜づくり

広いフロアを活かしたスペースの工夫

開設当初は、ワンフロアでしたが、多様な過ごし方ができるように、フロアを４つのスペースにゾーニングし、ご利用者が自分の落ち着ける場所を見つけられるようになりました。

○　多目的スペース　○　TVスペース
○　生活スペース　　○　静養スペース

「いこい」の基本方針

個別ケアで、その人が過ごしやすい一日を提供すること

構造資産

高い介護力

入浴は、完全個浴で最初から最後まで、１対１、同性介助（原則）で対応しています。口腔体操、歯磨きなど、健康維持に取り組んでいます。私的サービスにも対応し、保険外の外出支援サービス、延長サービスを実施しています。（事業所加算Ⅰ）

笑顔をありがとう！

人的資産

高い介護力を持つ人材たち

介護福祉士は、全職員１１名中５名。
認知症実践者研修修了者２名

人的資産

ご利用者様の個性豊かな才能はさすが！

ご利用者様による作品たち

関係資産

多彩なボランティア活動

お話、演奏、ハンドケアなど多くのボランティアたち

「いこい」の十カ条

1. ご利用者・ご家族の思いや声を大切に、可能な限り実現できるように努めます。
2. 普段の生活を心がけて、これまで培ってこられた経験や知識を発揮していただける居場所をつくります。
3. お一人おひとりが活躍できる居場所作りをします。
4. ご利用者の個性が尊重される居場所作りをします。
5. 常に表情豊かに笑顔で接します。
6. こころを動かして下さる声かけを心掛けます。
7. ご利用者の身体や心の変化に気付き素早く対応致します。
8. ご利用者が不安を引き起こす一切の言葉や行為に注意します。
9. 守秘義務を徹底します。
10. ご利用者・ご家族からの希望や要望を即座に受け取り職員の力に変えます。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

中央デイサービスセンター「しんあい」

認知症対応型通所介護
しんあい

構造資産

住宅地にある民家を活かした過ごし方

◇　「しんあい」は、大きな施設でなく、住宅地のなかにある普通の民家で、定員１０名の認知症対応デイサービスを行っています。
◇　家庭的で、かしこまることなく押しつけることもなく、自分の居場所をみつけていただく所です。
◇　ここではレクリエーションというよりも、共助や協働により、日々の営みが進んでいきます。

住み慣れた地域で暮らす－「さくら開花地図作り」

しんあいの近く、そしてちょっと足を伸ばしたくらいの範囲内で、桜の花が見られる場所を地図にしてみました。

食事作りも、協働で。

みんなでわいわいと手作りしたお昼ご飯は、なお一層格別！

「男の仕事」も頼りにしています！

「しんあい」の基本方針

ホッと出来る「しんあい」は、第２の我が家です。と言われたい

構造資産

共同作業はしんあいの十八番です！

利用者の役割がある場づくり。必要なものを自分たちで作ります。（日用品・レク道具など）

喜び合い、ほめ合う場づくり

人的資産

高い介護力を持つ人材たち

介護福祉士は、全職員８名中３名（正職２名）
ケアマネジャー資格者２名（正職２名）
社会福祉士１名（正職１名）
認知症実践者研修修了者２名

家で作る料理は、暮らしの基本

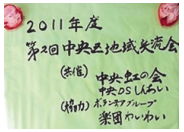
カロリーを計算し、おいしくて健康に良い食事を、計画的に立案し、皆で一緒にいただきます。

関係資産

年に２回の家族会を開催

平成２３年度の１回目は、ビデオを通して日常のご利用風景をご覧いただき後半は、口腔予防について歯科衛生士より学びました。

地域交流会の開催



毎年、湖南市の中央区老人会（虹の会）の皆様と、楽しい交流の時を持たせて頂いています。

多くのボランティアさん

月に1回の音楽療法やアコーディオンボランティアさんを始め、多くのボランティアが来所されています。

「しんあい」の十カ条

1. お世話するのでなく一緒に一日を共有します。
2. どんな時でも心のこもった言葉で接します。
3. 言葉の抑制が拘束に繋がることを忘れません。
4. 季節感のある旬の食材を皆で一緒に頂きます。
5. 身心に起こる変化を見逃しません。
6. ご自分を発揮できる環境作りを目指します。
7. 心に触れる笑顔とユーモアを大切にします。
8. 医療や制度の学びを怠りません。
9. 地域での役割を探求します。
10. 『しんあいの共助』を育みます。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

小規模多機能型居宅介護施設　ぼだいじ　みんなの家

小規模多機能型居宅介護施設
ぼだいじ　みんなの家

構造資産

個室対応の宿泊が出来る和風建築の小規模多機能型居宅介護事業所です。

「ぼだいじ　みんなの家」は、８室の個室と広いリビングや台所を備えた和風の建物で、デイサービス、宿泊サービス、訪問介護が、同じ施設と職員で受けられる、新しい介護サービスです。
ショートステイのように、数カ月前でないと宿泊ができないということがなく、急な用事やご家族の都合でも、随時の宿泊やデイサービスの利用が可能です。

明るく広いリビング、多様な個室、太陽光の採光などの工夫がされた家

自然の太陽光の取り入れや畳部屋など、省エネと落ち着いた和風の生活空間の両立を考えた設計により、ご利用者が気持ちよく生活できる施設となっています。

「ぼだいじ　みんなの家」の基本方針

軽度から重度の方まで、その人に合わせた介護サービスが利用できる

地域に密着した介護サービスのため、利用者間に、共通の話題や関係が多く、初めてでもなじみやすい場所となっています。

泊まりだけ、デイサービスの延長、夕食、朝ごはんだけを食べにくる人など、自在にご利用いただけます。その人のペースで過ごしていただけます。

人的資産

ご利用者に敬意を持って接する教育や研修を徹底しています。

職員の個性とやる気を大切にする職場づくり

若い職員が、はつらつとした発想を活かせる職場です。Wiiを使ったゲームなど、高齢者も一緒に楽しんでおられます。和装の講師もしているワーカーや栄養士の資格を持つワーカーなど、介護以外の得意なことや個性を活かして働いています。

関係資産

地域の自治会館の近くに立地し、地域連携の窓口となっています。

自治会長が運営推進協議会メンバーとして参加され、地域住民との意見交換を行い地域交流をしています。

住み慣れた地域にある介護施設なので、近所づきあいや親せきとの関係性などが、継続されています。

隣接するグループホーム等との連携により、緊急時対応、ケアの質の向上を図っています

認知症対応経験の豊富なグループホームと隣接しているため、緊急時や夜間の対応などに、連携して対応に当たる体制を構築しています。法人全体の人材育成や研修、他事業所との意見交換などを通して、レベルアップを図っています。

ぼだいじ　みんなの家の十カ条

1. 地域にお住まいの方に24時間の安心を届けられることを目指します。
2. 住み慣れた地域で少しでも長く暮らしていけるように支援します。
3. 穏やかに安心してお過ごしいただける場所と人間関係を提供します。
4. メリハリのある生活を送り、心身ともに健康でいられる取り組みを提供します。
5. ご利用者様がこれまで培ってこられた経験を活かして輝ける場を提供します。
6. ご利用者様の尊厳が守られ個性が受け入れられ、人生の先輩として尊重される場所を作ります。
7. 職員は常に笑顔で明るい態度で接します。
8. 職員が仕事にやりがいを持ち、勉強熱心な職場を作ります。
9. どなたでも、気軽にお越しいただける雰囲気を作ります。
10. 地域を知り、地域に知られる事業所を目指します

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ぼだいじ　居宅介護支援センター

ぼだいじ
居宅介護支援センター

構造資産

ケアマネジャーの主な役割は、介護保険制度において介護を必要とされる方のために、ケアプラン（介護サービス計画）の作成や介護サービスの調整・管理を行うことです。

良いケアプランを作る組織の力

新規ケアプランは、個々のケアマネジャーに任せきりにせず、みんなの意見を取り入れ、職場の全員が一言でも、ケアプランに加わる仕組みを構築しています。これにより、ケアプランの質の向上を図ることができ、ケアマネジャーの成長にもつながります。

緊急時にも、組織で対応できる平時からの情報共有体制、連絡体制を取っています。

他のケアマネジャーの担当するケアプランを知らないと、緊急時の対応が十分、取れないことが考えられます。
当事業所では、普段から、ケアプランを含め、様々な課題に対し全員で話し合い、解決に向けて取り組む組織風土を作っています。また、当番制で、ご利用者様やご家族からの緊急連絡に対応する体制を取っています。

「ぼだいじ　居宅介護支援センター」の基本方針

利用者や関係者から、ケアプランは「ぼだいじ」に、と言われるように。

人的資産

明るく情熱的な人材がいます

全員が明るく、笑顔の対応をしています。
自分の時間を超えてでも、他者のために対応しています。迅速な業務対応を心掛けています。

職員間の信頼関係を大切に！

どんなことでも、職員間で相談できる関係を大切にしています。クラブ活動にも積極的に参加し、他の事業所職員との関係も良好になっています。

勉強会や知識の習得に熱心に取り組んでいます！

週に1回は、全体ミーティングを行い、事例を中心に勉強会を行い、知識の向上、情報交換を行っています。
権利擁護、障害者福祉制度、医療保険制度など、介護保険の周辺の制度や仕組みを常に学び、利用者のために活かせるよう研鑽しています。

関係資産

ご利用者様、ご家族様、事業者や行政の方々との信頼関係が、よいケアプランづくりの基礎となります。事業者様へのアンケートを実施するなど、よりよい情報提供の仕方を工夫しています。

関係資産

法人内の他の事業所のミーティングに参加し、個々のケアプランに留まらない情報交換や相互のレベル向上が図られています。

事業所ミーティングに参加

ぼだいじ居宅介護支援センターの十カ条

1. **ご利用者の立場に立って、地域の介護を全力で支えます**
   チームワークを大切に自分の役割をしっかり果たします
   “地域にどう役立てるか”の視点を大切にします
2. **礼儀正しく、きびきびと行動します**
   利用者のみならず、職員間でもしっかり挨拶をしていきます
3. **電話はお待たせせず、丁寧に対応します**
   きちんと姿勢を正して、笑顔で話します
4. **相手の方が、伝えようとしている言葉・気持ちを正確に受け止めます**
   相手の方の言葉を真摯な姿勢で聴きます
5. **相手の方が理解できる丁寧な説明をします**
   理解していただけるまで、相手の方の反応を確認しながら説明を行います
6. **約束の時間、期日を守ります**
   訪問や会議の時間、書類の提出期限などを約束した時間や決められた期日を守ります
7. **相談者らしい身だしなみと服装に心がけます**
   相談を受ける立場として、相手の方が安心できる服装や雰囲気を作るようにします
8. **相談に行きやすい事務所つくりをします**
   利用者や家族、他の事業所の方が訪問しやすく、安心できる場として事業所の整理・整頓をします
9. **個人情報保護、守秘義務の徹底を図ります**
   個人情報を多数取り扱う仕事として、守秘義務の徹底を行い、必要以上の情報の提供は致しません
10. **しっかりと記録を残します**
    5W1Hでしっかりと記録に残します

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ぼだいじ　高齢者支援センター

ぼだいじ
高齢者支援センター

構造資産

１．生きがいデイサービス（るんるんクラブ）

◇　「るんるんクラブ」というのは、湖南市から委託を受け、「生きがい活動支援通所事業」の一環として行っている事業で、湖南市にお住まいの方々で、65歳以上の高齢者にご利用戴いています。

◇　一日の利用料は、３００円で、別にお弁当代５００円、お茶代１００円が要ります。

◇　湖南市から、補助が出ています。

２．配食サービス

◇　３６５日休まずに、昼と夕の食事を配食しています。（１食６５０円）

◇　利用者の状況に臨機応変に対応し、キザミ食、軟飯、かゆ食を提供しています。

◇　配達時に、なじみのスタッフが声かけをして、安否の確認をしています。

◇　配食サービスがあることで、独居高齢者の退院後、病気療養、買い物支援などに対応でき、安心を提供しています。

◇　容器にも工夫し、温かいものを温かいまま食べていただけるようにしています。

◇　滋賀県警の安心ネットワークの一つとして、高齢者を狙った犯罪防止のお知らせなどを配っています。

３．相談・情報提供事業

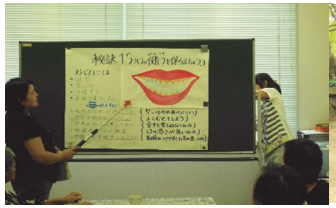
◇　中学校区の８か所のサロンや小学校、２か所の生きがいデイサービスで、相談を受けたり様々な情報提供を行っています。

主たる事業内容

１．生きがいデイサービス（るんるんクラブ）
２．配食サービス
３．相談・情報提供サービス

人的資産

正職員は１名ですが、**「生きがい」担当２名、「配色担当」６名のスタッフ**が、単なる業務の提供に留まらず、高齢者支援の担い手となって、介護予防や支援策について、自主的に学んでいます。今では、講師役を務めるまで、成長してくれています。



るんるんクラブの活動風景

「行ってよかった」「楽しかった」などを声をいただいています。夏祭りのイベントでは、着物を着てくれたりと、ご利用者の楽しみの一つとなっています。

関係資産

地域との関係

民生委員や行政との情報共有が進み、見守りや安否情報の共有を進めています。
地域の小学校に、「高齢者の暮らし」についての講演活動などを行っています。
地域住民を対象に、人権研修の企画、運営、講師などを行っています。

事業者との連携

地域のデイサービス事業所で、介護保険の研修等を行ったり、法人内のデイサービス担当者との情報交換などを積極的に行い、ともにレベルアップに取り組んでいます。

高齢者支援センターぼだいじの十カ条

高齢者支援センター

１．丁寧に対応いたします。
２．迅速に対応いたします。
３．的確に対応いたします。
４．連携して対応いたします。
５．守秘義務を厳守致します。

生きがいデイサービス

６．いきいきと元気になれる居場所づくりを行います。
７．ご利用者の自由で居心地の良い空間作りを目指します。

配食

８．丁寧な言葉遣い、親切な対応を心がけます。
９．食事形態は、できる限りの対応をいたします。
10．顔をあわせての手渡しをさせていただきます。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

ぼだいじ　訪問看護ステーション

ぼだいじ
訪問看護ステーション

関係資産

近江ちいろば会の持つ多様な介護サービスと、連携することで、在宅医療や在宅介護の安心と安全な暮らしを支えていきます。

◇　ヘルパーステーションと連携し、在宅リハビリテーション、入浴介護、排泄のケア、服薬の管理などを行います。

◇　小規模多機能型居宅介護と連携し、在宅生活における看護サービスの提供や相談等を行います。

◇　グループホームと連携し、日々の医療的な対応や相談、看取りの援助などを行います。

◇　その他、介護職の方々への医療情報の提供、感染防止、心身のケアの相談等を通じて、近江ちいろば会の介護の質の向上を支援します。

訪問看護ステーションの十カ条

1. 利用者さまのプライドを大切にし、自らも専門職としてプライドを持っています。
2. 利用者さまのため、出来る事はご自分でしていただきます。
3. 利用者さまが大切な物は、私たちも大切にします。
4. 利用者さまのお話を聴いてストレス発散していただきます。
5. 利用者さまと一緒に泣いたり笑ったりします。
6. 利用者さまの不安をなくし心のふれあいと安定をたいせつにします。
7. 利用者さまを人生の先輩として尊敬します。
8. 利用者さまのため他の事業所と連携してケアします。
9. 利用者さまのテンポを大切にします。
10. 利用者さまと介護者と共に歩んでいきます。

主たる事業内容

医療保険、介護保険における訪問看護サービスを提供しています。

訪問看護ステーションとは

訪問看護ステーションから専門の看護師等が利用者様のご家庭を訪問し、病気や障害を持った人が住み慣れた地域やご家庭で、その人らしく療養生活を送れるように、正看護師３名が３６５日２４時間体制でサポート致します

訪問看護ステーションでは次のようなサービスを提供しています。

■療養上のお世話 身体の清拭、洗髪、入浴介助、食事や排泄などの介助・指導	■医師の指示による医療処置 かかりつけ医の指示に基づく医療処置
■病状の観察 病気や障害の状態、血圧・体温・脈拍などのチェック	■介護予防 低栄養や運動機能低下を防ぐアドバイス
■ターミナルケア がん末期や終末期などでも、自宅で過ごせるよう適切なお手伝い	■床ずれ予防・処置 床ずれ防止の工夫や指導、床ずれの手当て
■在宅リハビリテーション 拘縮予防や機能の回復、嚥下機能訓練等	■認知症ケア 事故防止など、認知症介護の相談・工夫をアドバイス
■ご家族等への支援・相談 介護方法の指導ほか、さまざまな相談対応	■医療機器の管理 在宅酸素、人工呼吸器などの管理**（相談の上、可否を決定）**

人的資産

所長の北村は、大学病院や一般病院で、外科系、内科系、回復リハ、訪問看護などを経験した後、知的障害者施設、脊損など重度障害者医療、ホスピス病棟などを幅広く経験してきました。また、病院併設の訪問看護ステーションで、在宅医療、在宅看護にも長く関わってきました。

他の２人も、それぞれ、医療機関での勤務経験は当然として、デイサービスの看護経験や、３次救急医療機関での勤務経験を活かし、在宅での暮らしを支えていきたいと、近江ちいろば会の訪問看護サービスの立ち上げに参加しました。

訪問看護の特徴は、ご利用者様との関わりの時間が、３０～６０分くらいと、十分取れることです。また、仕事を続けている限り、長くお付き合いすることとなります。
医療は当然として、お話を傾聴したり、身体をさすってあげたりすることで、痛みや不安が軽くなることもよくあります。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

グループホーム・デイサービス
みなくち　みんなの家

構造資産

水口町で、長く産婦人科医院として親しまれてきた建物を活かし、地域に溶け込んだ生活空間を提供しています。

朝日を十分、浴びることが、睡眠など体内リズムを整えることが知られています。当施設は太陽光を直接、取り入れる装置を導入しました。また、太陽光パネルも設置し、省エネや環境に配慮した暮らしをしています。

グループホーム　みなくち みんなの家　十ヶ条

1. 入居されている方の尊厳や権利を守ります
2. 入居されている方の「声」を大切にします
3. 入居されている方のお一人おひとりの生活リズムにあわせた過ごし方をしていただきます
4. 入居されている方の「今」出来ることを大切にし、可能性を引き出します
5. 入居されている方の今までの生活や関係性を大切にします
6. 入居されている方、ご家族、職員とが共に支えあいます
7. 誰もが気楽に出入りができる開かれた「みんなの家」にします
8. 地産地消の美味しい、温かい食事を提供します
9. 地域の住人としての役割を入居されている方とともに担います
10. 地域を知り、地域に知られる事業所を目指します

構造資産

グループホームとデイサービスが併設されているので、デイのご利用者様とグループホーム入居者様の交流や、設備の共用ができます。そのため、ご利用者の少ない日も、楽しく過ごせたり、多い日も設備が不足することがありません。

人的資産

認知症実践者研修修了者５名、認知症実践リーダー研修修了者２名、介護福祉士８名、社会福祉士２名、ケアマネジャー資格者２名など、介護や認知症の専門職が多く働いています。

教育研修は、近江ちいろば会と同じシステムで、外部研修、法人内研修、業務改善活動等に参加しています。

デイサービスセンター　みなくち みんなの家　十ヶ条

1. ご本人、ご家族、地域の方との出会いを大切にし、明るく元気に挨拶をします
2. ご利用者の思い、個性、何よりも声を大切にします
3. ご利用者、職員共に同じ時間を過ごし一日一日を大切にします
4. ご利用者がひとときの一瞬を輝ける居場所作りをします
5. ご利用者への抑制、制止の声掛けはしません
6. 信頼関係がよりよくなるように常に笑顔で接します。（ご本人、ご家族、地域）
7. 手作りのおいしい地産地消の食事を提供いたします
8. 地域の一員として役割を担い共生します
9. 専門的なケアを行うために日々学習をします
10. ご利用者の守秘義務を厳守します

関係資産

みなくち　みんなの家では、地域に開かれた施設にしたいと考えています。

場所柄、施設の駐車場が、子供たちの朝の登校の集合場所となり、毎朝、子供たちが集ってきます。夕方には、親しくなった子供たちが、遊びや宿題のために、中まで入って過ごしたりしています。

ケアプランセンター
みなくち　みんなの家

人的資産（ケアマネジャー）

当ケアプランセンターの所長は、福祉のエキスパートとして、障害児、障害者（精神、知的、身体）分野を中心に経験が豊富です。どんな相談でも受けていますので、介護や福祉のことでお困りのときは、お気軽にご相談ください。

ケアプランセンター　みなくち みんなの家　十ヶ条

1. 挨拶をしっかりと行います
2. 笑顔で対応いたします
3. まずはご利用者の話しを傾聴します
4. ご利用者が理解できる丁寧な説明をします
5. 色々な相談に対応できるように情報収集につとめます
6. できることを叶えられるケアプランの作成を行います
7. 約束や依頼ごとを確実に実施します
8. いつでも連絡がとれる体制をとります
9. わかりやすい記録をしっかりと残します
10. 個人情報の保護、守秘義務の徹底を図ります

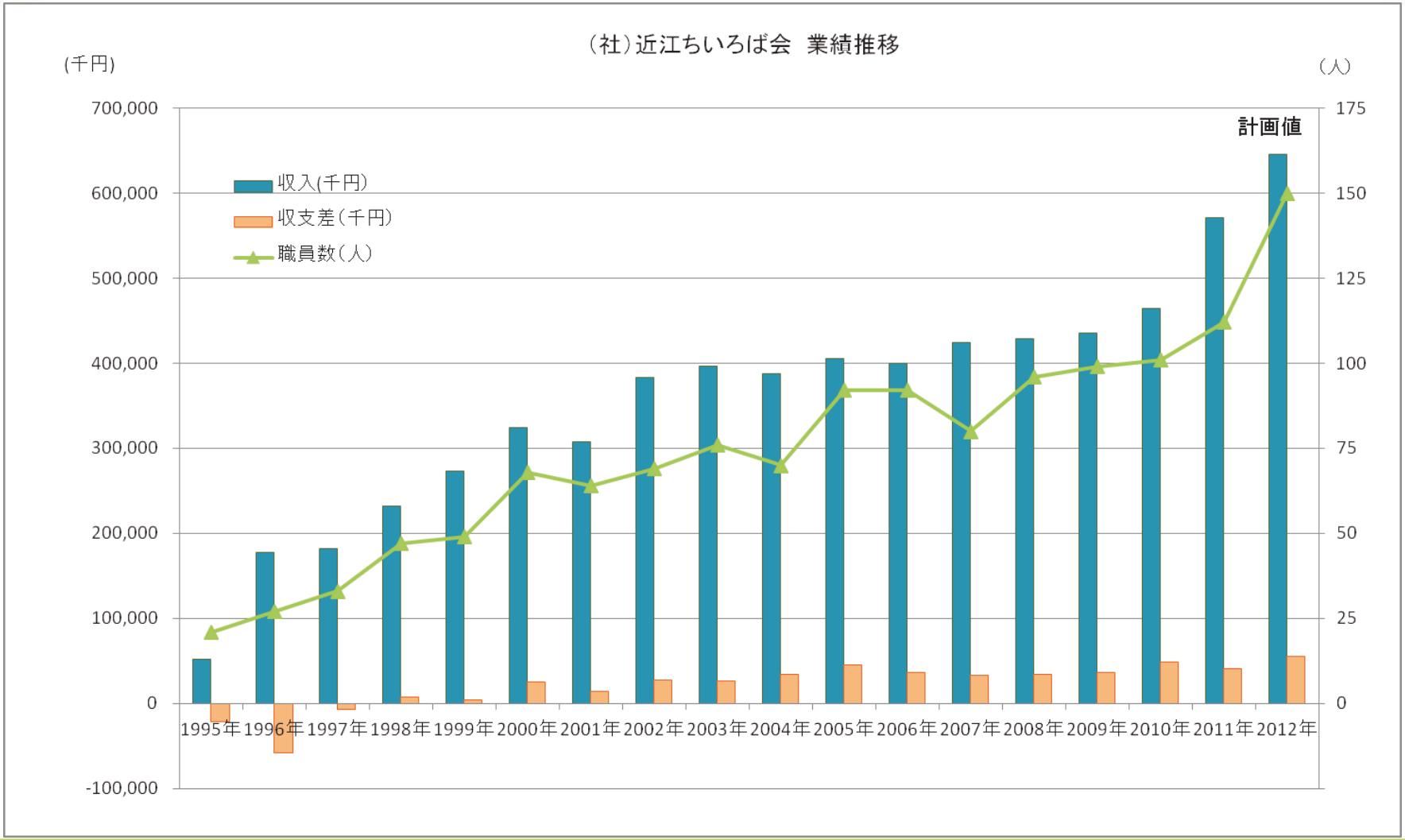
(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

社会福祉法人近江ちいろば会の沿革（過去から現在）

	創業前期	創業期	混迷期	改革期	充実期	成長期
年代	～1993年	1994年～2000年	2001年～2003年	2004年～2007年	2008年～2010年	2011年～
トピックス	京都市の世光教会の牧師であった後宮俊夫が、教会の老婦人達の生活をどう守っていくのかを真剣に考えていくなかで、紆余曲折を経て、現在の滋賀の地（菩提寺）に、土地を得た。	‘94年6月29日に社会福祉法人設立認可を受け、ケアハウスの建設に着工。’95年9月1日より、事業を開始した。 2000年に介護保険が施行され、法人の経営は、措置制度から契約制度(実績主義）へと転換された。	京都大学大学院建築学教授の外山義先生の出会いを受け、当時の先進的グループホームを建設する。内部的には、それまでの措置制度の意識が抜けず、経営の仕組みづくりが不十分であり、経営陣への厳しい批判、対立が起こり、資金面でも逼迫する。	森口館長を中心として松下電器（株）時代に体験してきた部門別計画経営の導入に取り組む。 利用者の視点に基づく経営の改革、個人目標や面談制度などの人事制度、賃金制度の改革に着手した。	計画経営の浸透、継続的計画的な研修や人事制度による人材育成、既存事業の成長等により、人モノ金の経営資源の充実を図る	2011年小規模多機能型居宅介護「ぼだいじ　みんなの家」を開設した。 2012年4月、甲賀市水口町にグループホーム、デイサービス、居宅介護支援を開設した。
人と戦略	後宮俊夫牧師の発意、構想力と強固な意思により、ゼロからの挑戦が始まる。教会有志による建設基金の募集を開始した。 宮田理事長の豊富な経歴、人脈により、社会福祉法人の設立、建築許可の承認を得ることができた。	理事長　宮田誉夫 後宮俊夫は館長に就任し、経営にあたる。措置制度による高齢者福祉行政の委託事業として、ケアハウス、在宅介護、配食と認知症に特徴を持つデイサービスを開始する。	理事長　奈良誉夫 館長　　後宮俊夫 認知症対応を一層進めるため、グループホームの建設に着手した。 後宮の構想実現力が発揮された。	理事長　奈良誉夫 館長　森口　茂 契約制度に対応した経営を目指し、森口茂が2004年4月に館長就任。松下電器OBにより、財務面の改善に着手した。経営の透明性を高め。職員の経営や事業への参画意識を高めた。ケア業務中心の外部研修だけでなく、法人内部の独自の階層別育成、管理職育成にも取り組み始めた。	理事長　奈良誉夫 館長　森口　茂 成長に必要な人モノ金の経営資源の蓄積に努めた。 ワークライフバラスに取り組むなど、人的資産の形成に努めた。職場の課題解決手法として、QCサークル活動を導入し、自ら考える力、協働で考え、実践する力の養成を始めた。	理事長　奈良誉夫 館長　森口　茂 改革期の人材育成が少しずつ成果を現してきた。新事業の担う人材が育成されてきたタイミングで、財務の健全性も確保されてきたため、新規事業への投資が可能となった。
事業内容	土地の調査、保安林の解除、社会福祉法人の設立認可　等	ケアハウス、デイサービス（一般型、認知症型）、在宅介護支援センターの事業を開始する。 1996年に配食サービス、1997年に、ヘアハウスに限定したホームヘルパー事業を開始した。2000年からは、ホームヘルパー事業を地域に拡大した。	2002年よりグループホーム事業を開始した。	2007年に、これまでの中心地域であった菩提寺北中学校区の外に、地域密着型小規模デイサービス「しんあい」を開設した。	既存デイサービスの定員を増加した。	2011年小規模多機能居宅介護「ぼだいじ　みんなの家」を開設した。 2012年、在宅医療の充実を図るため、訪問看護を開始した。 同年、甲賀市にグループホーム「みなくちみんなの家」等、3事業所の建設が決まる。

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

社会福祉法人近江ちいろば会の業績推移



(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

私たちの弱み、機会、脅威

弱み

Ⅰ．人材

1）医療系人材の不足

◆ケアマネジャーの職業背景として、医療系人材（看護師）が少ない（現状1名）

◆社会福祉士（MSW経験）も増やしたい

◆PT,OTなどリハビリテーションの専門人材が不足

2）リーダーの不足

◆いい人、おとなしい人は多いが、リーダーシップ、責任感、組織をまとめる力のある人材の層を厚くする必要がある

3）ビジョン構築、起業家精神のある人材

◆中間管理者～上級管理者、経営管理者の層を厚くする

4）対人関係の構築力のある人材不足

◆家族との関係構築、他事業者との関係構築ができる対話力、交渉力、判断力のある人材育成

Ⅱ．介護力の一層の強化

1）認知症介護

◆認知症そのものは一般化し、誰もがある程度の知識や技能を持つようになる。当法人は、そこから抜きんでて、一層の困難事例や重度な方の暮らしを支える知識、技能集団となりたい

2）在宅医療対応力

◆医療が必要であっても、在宅で暮らせる介護力

Ⅲ．ブランド力、知名度が不足

まだまだ地域に、近江ちいろば会の魅力が伝わっていない。名前が知られている地域が小さい。北山台、三上台などへ知名度を高める必要がある

機会

Ⅰ．人材採用の機会の増大

日本経済の長期低迷で、国内産業として、成長が見込まれる介護業界に、人材が入ってくる

Ⅱ．高齢者人口の増加

団塊の世代（年金世代）が、本格的に後期高齢化してくる。ニーズが多様化し、個別対応が求められる。

Ⅲ．資金調達がしやすい

低金利政策、市場成長性が高い業界

Ⅳ．社会保障政策の方向性

在宅重視、良質の在宅サービスを提供するところが有利になる

Ⅴ．精神障害者の在宅復帰が進む

要介護高齢者のなかの精神障害者の在宅復帰が進み、普通の暮らしのなかで、暮らし続けられる生活環境が求められる

Ⅵ．新しい事業やサービスが生まれる

事業が拡大するので、職員が夢を持って仕事ができる。成長のチャンスが多い

脅威

Ⅰ．社会保障費の削減による市場の縮小

1）利用者負担の増加

2）保険給付対象者の絞り込み

3）保険給付範囲の縮小

Ⅱ．競争の激化

多様なサービスの出現、競争者の増加による過当、過剰な競争

Ⅲ．若年層の減少による就業者の減少

他の産業に若年就業者が取られる

業界内部で、若年者の奪い合いが起こる

Ⅳ．金儲け第一主義の事業者の出現

無理な価格競争、人材の使い捨て、利用者を商品のように扱うサービスが広がり、業界全体が低レベルとみられること。

介護サービスの質の違いが、なかなか伝えることができない

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

社会福祉法人近江ちいろば会のビジョン

私たちの目指す姿

✓地域の方々から、近江ちいろば会があってよかったなあ、守ってもらっている、と言ってもらえる事業を行う

✓在宅医療が必要となっても、認知症となっても、高い人権意識、倫理観を持って、援助ができる

✓どこよりも、近江ちいろば会を利用したいと言ってもらえる

戦略的人材育成の仕組み

✓優れた事業者との連携による人材育成
（高いレベルの教育機会）
（日本キリスト教社会事業同盟等）
（滋賀県老人福祉施設協議会）

✓リーダーの育成
（計画的育成）
（5年後の中核人材候補の育成）

✓対外発表などを積極的に行い、視野や人脈を広げる

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

魅力（知的資産）の強化と新たな魅力創出に向けて

中期計画　KPI指標のマネジメント

事業戦略

平成２４年（創業１７年）	平成２５年（創業１８年）	平成２６年（創業１９年）
展開事業所数（１１→１５）	展開事業所数（１５→１６.）	展開事業所数（１６→１７）
医療系サービスの開始 （訪問看護）	医療系サービスの経営貢献 情報システムの活用力の強化	湖南市、甲賀市地域での在宅医療、在宅介護のトップランナーとなる。
ケアの高度化 （小規模サービスミックスの充実）	ケアの多様化 （訪問介護、看護サービス、訪問リハ等）	ケアの包括化（高齢者住宅等） 創業２０年事業へ

エリア戦略

平成２４年	平成２５年	平成２６年
甲賀市に、グループホーム、デイサービス、ケアプランセンターを開設。	甲賀市　プレセンスアップ	甲賀市での事業拡大（小規模多機能型など）
甲賀市 ケアマネジャーによる地域ニーズの把握	菩提寺　甲西北中学校区でのサービス向上 訪問リハ、等の開設に向けて着手	
湖南市における認知症ケアのトップランナー 訪問看護の開始 地域やご家族との更なる交流や信頼の構築		リハビリデイの開設、高齢者住宅等の検討

人材戦略

平成２４年	平成２５年	平成２６年
水口など、事業をまかせられる人材（管理職）育成。管理職・主任研修（年に２日間）	本部の体制強化 （内部育成１名、企業退職者１名等）	法人規模にふさわしい組織体制の再構築に着手
医療人材の採用（看護師）３名	PT、OTの採用	
リーダーの育成（新任所長　３名育成） グループリーダー制の導入	グループリーダーによる運営力の強化 （権限の委譲と責任体制）	グループ別運営の定着 （部門別収益体制の強化）
事務人材の採用と育成 ケアマネジャーの内部育成（年に１名ずつ）	ケアマネジャーの内部育成（継続） 定期採用と、企業退職者雇用による組織運営ノウハウの獲得	投資案件数、新規事業アイデア活性化

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

事業者の概要

事業所

〒５２０－３２４２
滋賀県　湖南市　菩提寺　３２７番地４
電話番号：０７４８－７４－３９００（代）
ＦＡＸ番号：０７４８－７４－３９１０

ご連絡は、電話またはＦＡＸでお願いします

アクセス

社会福祉法人
近江ちいろば会
〒520-3242　滋賀県湖南市菩提寺327番地4
TEL.0748-74-3900（代）　FAX.0748-74-3910

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

魅力発信経営報告書について

１．魅力発信経営報告書は、経済産業省から平成１７年１０月に公表された「知的資産経営の開示ガイドライン」に準拠して作成されています。「知的資産経営の開示ガイドライン」をベースに、医療と介護事業者向けの経営報告書として作成しました。

「魅力発信経営報告書」は、数値では表わしにくい経営資源＝知的資産を、ご利用者、職員、取引先等といった関係者に対し、事業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見える形で分かりやすく伝え、事業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する報告書です。

２．「知的資産」とは

決算書などに記載されている資産以外の無形の資産であり、事業者における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、利用者等とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。この魅力発信（知的資産）経営報告書に掲載しました将来の経営戦略及び事業計画並びに附帯する事業見込みなどは、すべて当事者の判断にて記載しております。そのため、将来に亘り当法人を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）の変化によって、これらの記載内容などを変更すべき必要が生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に掲載した内容や数値などを、当法人が将来に亘って保証するものではないことをご了承願います。

３．魅力発信経営報告書の作成にあたっては、本書記載内容につき、その客観性を維持・向上させる趣旨から、次に掲げる専門家のご支援・ご監修を賜りました。

京都大学大学院医学研究科医療経済学分野
教授　今中雄一
田中将之
宇川直人
船本智睦
中小企業診断士・社会福祉士　大石孝太郎
中小企業診断士　成岡秀夫

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構

社会福祉法人
近江ちいろば会

〒５２０－３２４２
滋賀県　湖南市　菩提寺　３２７番地４
電話番号：０７４８－７４－３９００（代）
ＦＡＸ番号：０７４８－７４－３９１０
ホームページ：http://chiiroba.jp/
ご連絡は、電話またはＦＡＸでお願いします

(C)京都大学大学院医学研究科医療経済学分野＆日本医療経営機構